

企業が語るいきものがたりシンポジウム

自然資本・生物多様性への 取組みについて

2023年2月22日

農林中央金庫エグゼクティブ・アドバイザー

TNFDタスクフォース・メンバー

秀島 弘高

農林中央金庫のブランドステートメントとパーパス

私たち農林中央金庫の仕事は、ある日突然、世界を大きく変えるようなものではない。なぜなら私たちが向き合う農林水産業とは、自然を相手にし、一朝一夕に変化や成果を生み出すものではないから。モノをつくるのではなく、「いのち」を生み、育て、繋いでいくものだから。だからこそ私たちは、世界の金融市場で安定した利益をあげるという挑戦を続け、規模の大小を問わず、地域と農林水産業を守る人々に尽くす金融機関として生きてきた。そうして、90余年の歴史を重ねてきた。しかしこれからは、それだけでは十分とはいえない。農林水産業が、時代の変化をとらえ発展し続ける産業になるためには、私たちは、これまで以上の役割を果たさなければならない。金融の知見を活かしながら、いままでの機能や範囲を超えた新たな貢献へ。現場の課題の解決に、身をもって真摯に挑んでいく。生産者はもちろん加工や流通、そして消費者と向き合い、その声に応えていく。農林水産業から生まれる「いのち」は、その先に連なるたくさんの「いのち」の営みに繋がっている。いまこそ、私たち一人ひとりが、持てるすべてを発揮する時。未来へと受け継がれるこの「いのち」の連鎖を、より豊かで確かなものにするために。

持てるすべてを「いのち」に向けて。

Dedicated to sustaining all life.

ステークホルダーのみなさまとともに、

農林水産業をはぐくみ、豊かな食とくらしの未来をつくり、

持続可能な地球環境に貢献していきます

農林中金の組織概要

基盤

協同組合ネットワーク



- 当金庫出資団体：
3,317団体
- JA、JF、JForest
組合員数
約1,200万人
- JA・JFの貯金量
111兆円 (2022年3月31日現在)

安定した財務基盤

- 資本金
4兆401億円
- 自己資本比率
15.7%

(2022年9月30日現在)

ビジネス

リテール
ビジネス

食農
ビジネス

投資
ビジネス

社会に提供する価値

農林
水産業
の成長

地域の
多様性

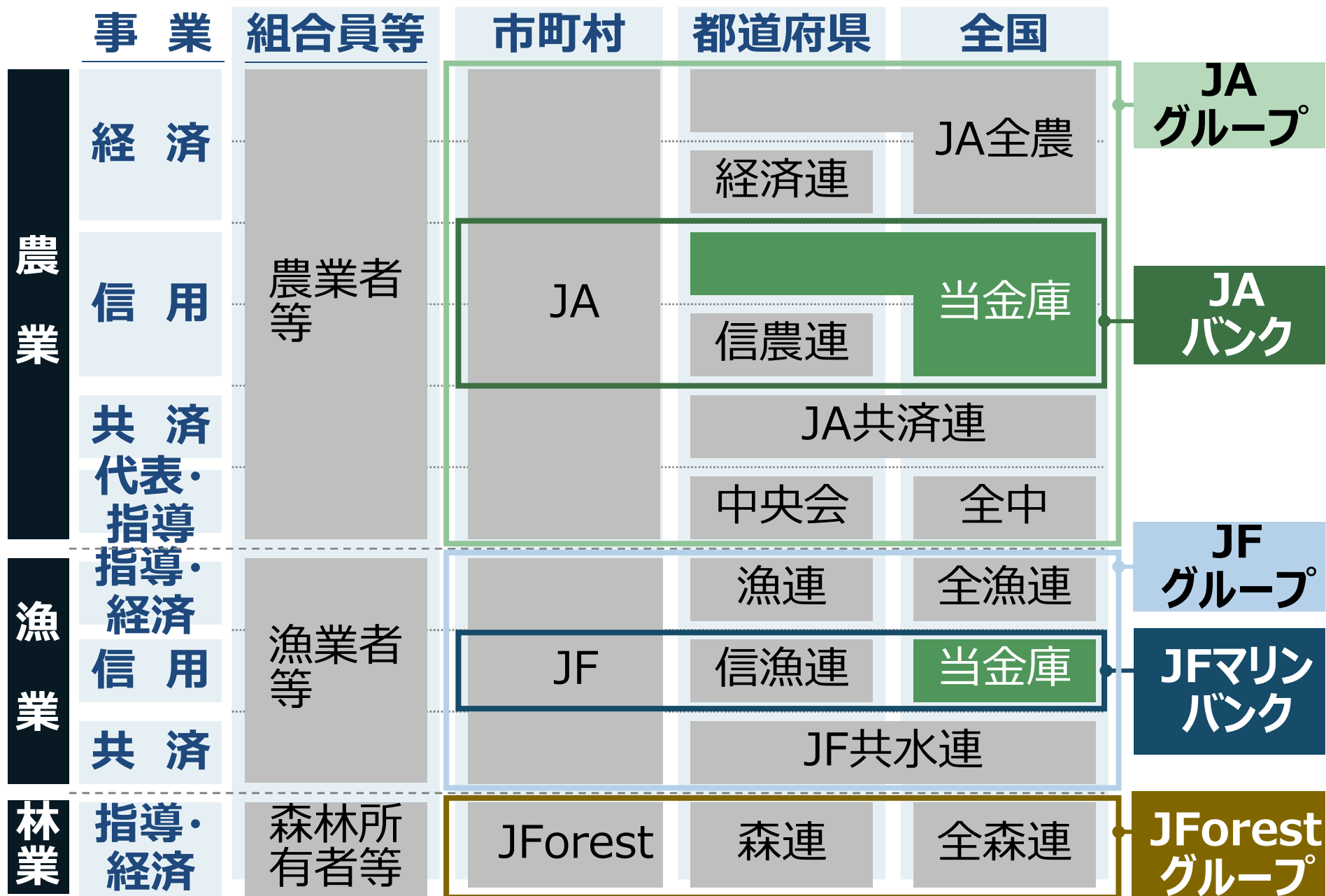
安心・
安全な
食料

国土・海洋
の環境保全

農村漁村
地域の
活性化

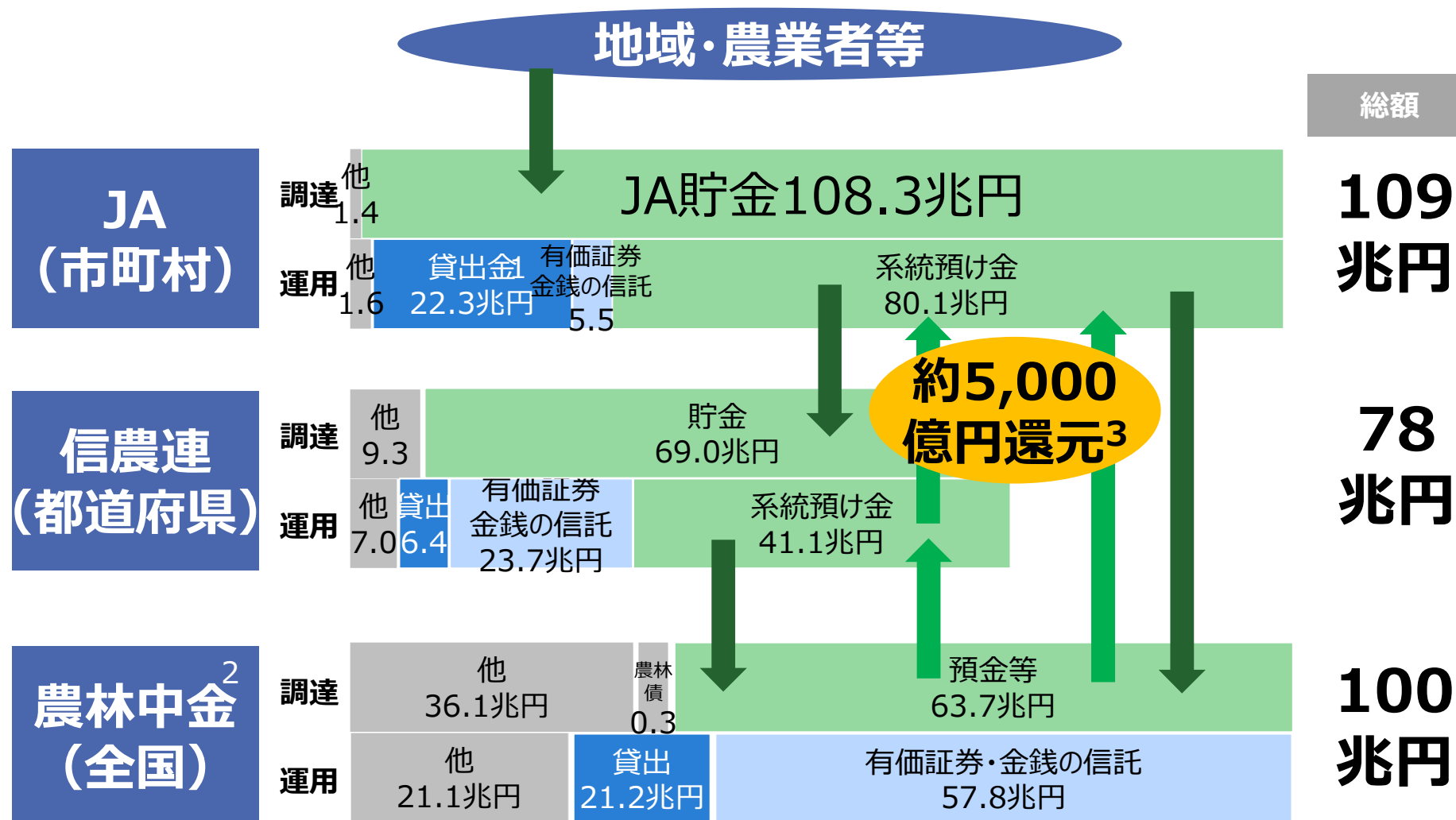
農林水産
業を通じた
経済発展

系統組織の概要（参考）



系統信用事業（JAバンク）における資金の流れ（参考）

兆円；2022年3月末



1 J Aおよび信連の貸出金には金融機関向け貸出金は含まない

2 農林中金の残高は海外勘定を除く

3 出典：農水省「総合農協統計表（2020）」 還元額 = 預金利息 + その他受取利息

農林中金のパーパス（詳細はP.1のとおり）

基本的な考え方を環境方針・投融資セクター方針で具体化

環境方針（抜粋）

- 当金庫は、「いのち」を守るべく、**生物多様性**へ配慮する必要があると考えています。
- またステークホルダーとの対話からも、**生物多様性**は重要な課題の一つであると認識しています
- **生物多様性と生態系サービス**に対して正の影響を与えるよう努めます。

投融資セクター方針（抜粋）

投融資を禁止する事業

- ユネスコ指定/ラムサール条約指定湿地へ負の影響を及ぼす事業

特に留意が必要な事業

- 保護価値の高い地域へ負の影響を及ぼす事業

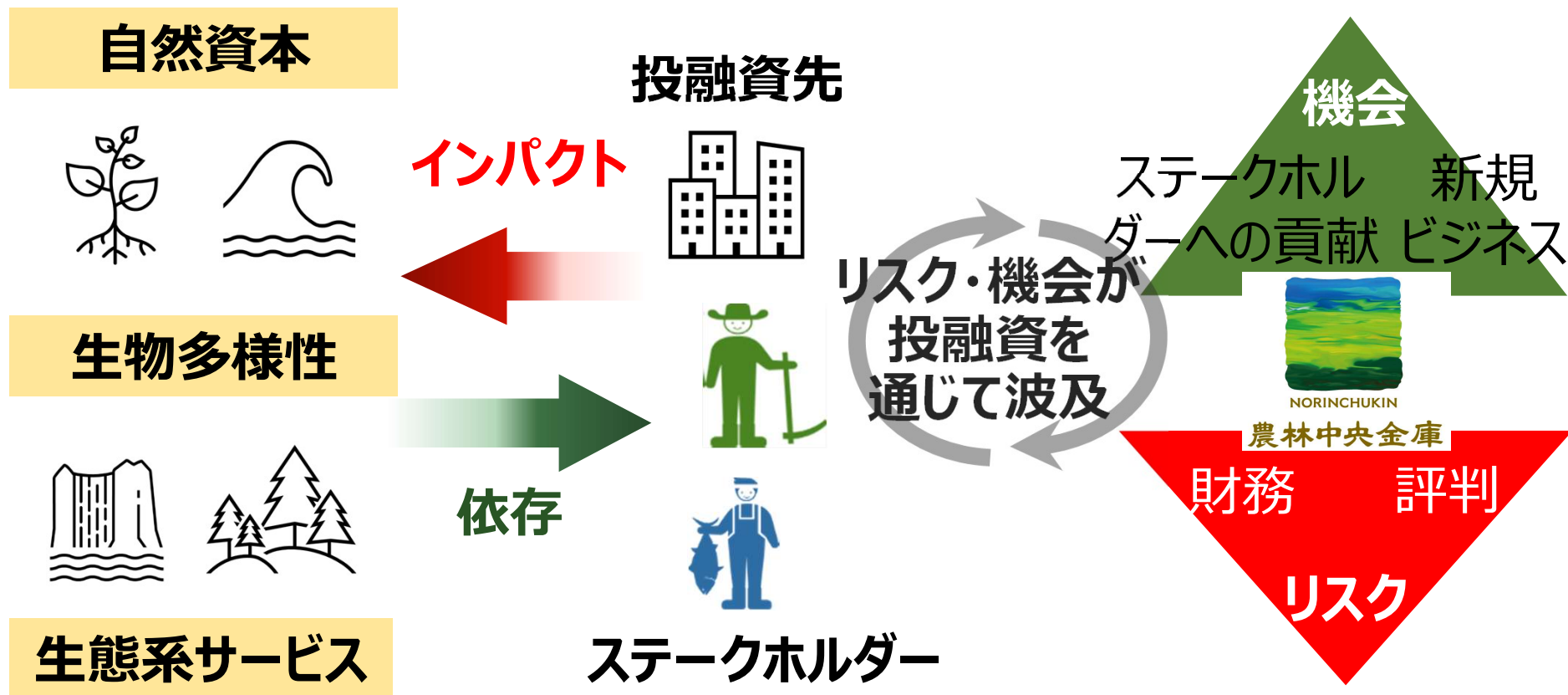
特定セクターにかかる項目

- パーム油、森林…

投融資を通じた取組みに加え、TNFDタスクフォースメンバーとしてグローバルなルールメイキングへの参画を通じた貢献

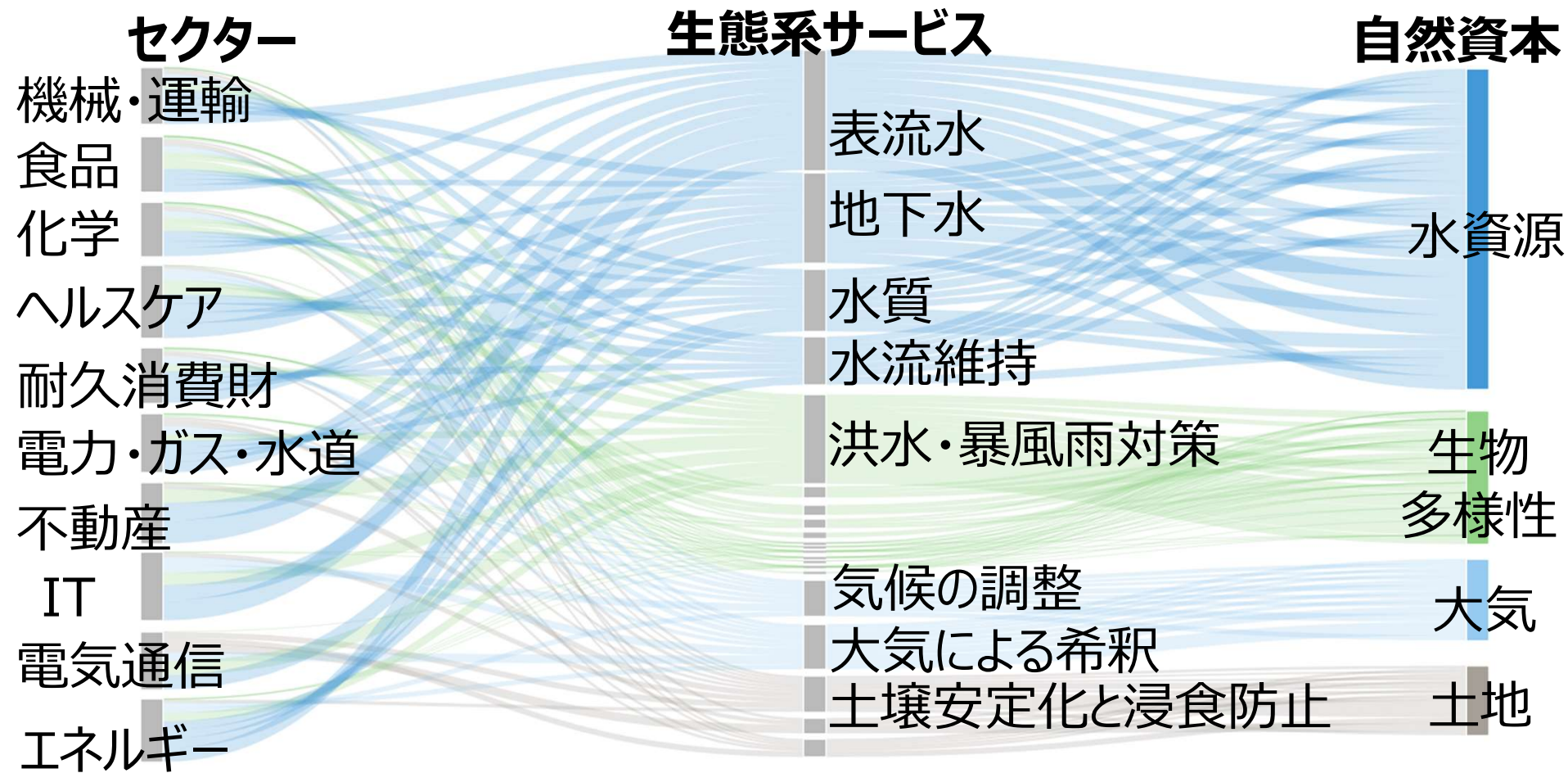
自然資本・生物多様性への依存およびリスク・機会（全体像）

自然資本・生物多様性とビジネス、金融機関の関係性（イメージ）



上記の関係性を踏まえ、ポートフォリオにおけるセクター別の依存・インパクトの関係を可視化し、マテリアリティを評価することから着手

リスクと機会の把握に向けた分析例（ポートのセクター別依存分析）

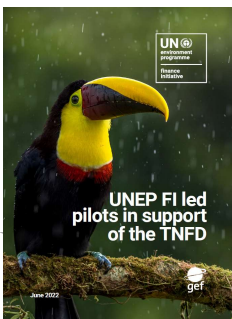


セクター毎に依存のあり方は区々。リスクと機会の把握に向けてはセクター、投融资先、ロケーション等に応じた分析解像度の向上が課題

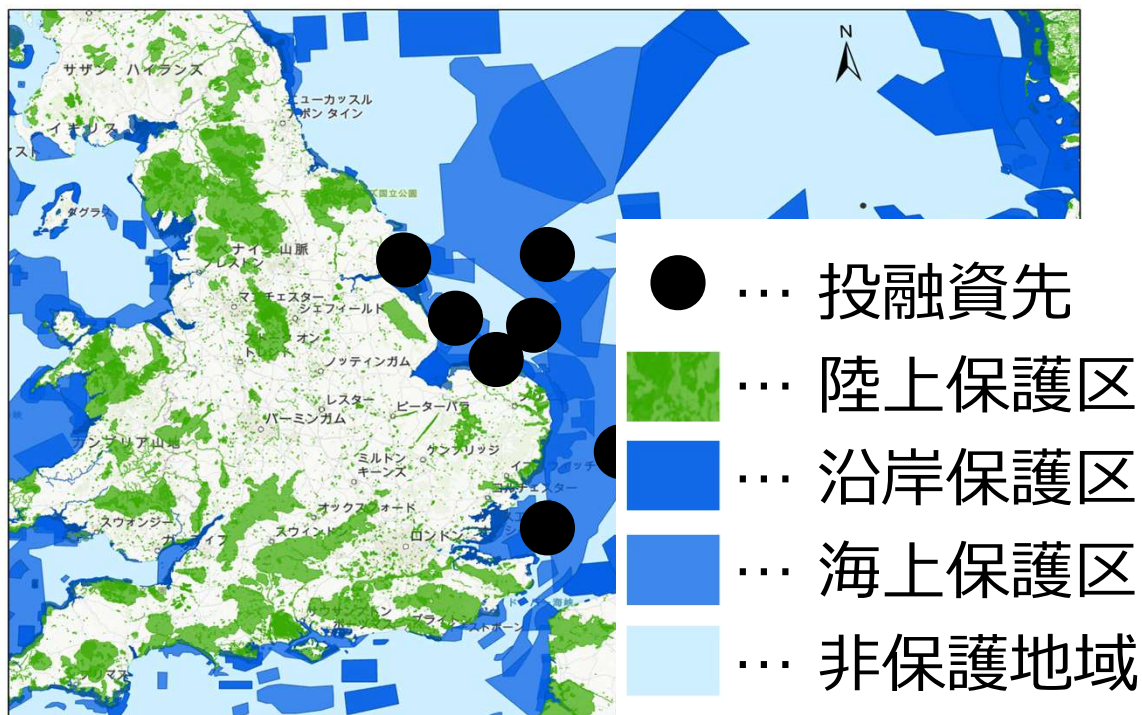
脚注：セクター毎のエクスポージャー量のみ基準時点のポートフォリオをもとにウェイトを均等に加工

出所：ENCOREを活用して作成

リスクと機会の把握に向けた分析例（LEAPアプローチの試行）



UNEPFIによるTNFDパイロットテストに参加し、洋上風力を対象にLEAPアプローチを実践し、分析



- ・ 自然資本・生態系サービスへの依存やインパクトの状況を分析
- ・ 保護区地域の拡大等の移行リスクなどリスク・機会の波及経路を検討

出所：ArcGIS、TNFDβ版0.3、UNEPFI資料を基にして作成

ネイチャーポジティブに向けた農林中金の取組事例

森力基金の設置（国内）

- 国内の荒廃した民有林の再生により、森林の公益性を発揮させる活動に対して助成
- 森林の多面的機能が持続的に発揮されることを目的とする
- 助成額は年間 2 億円（1 団体 3 千万円が上限）
- 前身を含み、累計17回の募集を行い、100件以上の案件への助成を実施

自然資本・生物多様性を維持、向上させるために不可欠な森林再生を支援

世銀債への投資（国外）

- 世界銀行グループが発行したフードロス債に投資
 - 投資金額は535億円と本テーマでは世界最大規模（2019年9月当時）
- ◆ 資金使途のイメージ（農村開発PJ）



プロジェクト概要

本プロジェクトでは、同国全体の農業の近代化を目指しており、農村部のインフラの強化を行います。具体的には、農場から市場への道路や橋の整備、作物の収穫後の保管施設や生産設備の建設など、農産物の生産・物流・販売で構成される商品バリューチェーンの強化を行います。

インフラの強化に加え、技術支援や市場との連携構築、民間セクターや大学との連携によるマーケティングの導入など、小規模農家の市場へのアクセス拡大を支援し、市場価値のある農作物の生産量と農村部の所得の増加を目指します。

自然資本・生物多様性の劣化と直結する世界的なフードロス問題解決へ資金を供給

出所：世界銀行、農林中央金庫資料